

阪神・淡路大震災から15年

祈りの灯、絶やさぬ

重ねた年月、思い胸に

6434人が亡くなった阪神・淡路大震災は17日、発生から丸15年を迎えた。

神戸市をはじめ兵庫県内の被災地では、地震が起きた午前5時46分に合わせ

追悼行事が営まれ、あらためて犠牲者の冥福を祈った。

神戸・三宮の東遊園地で開かれた「阪神淡路大震災1・17のつどい」には、昨

年より約2500人多い約8千人が訪れた。約1万本の竹灯籠のろうそくに火が

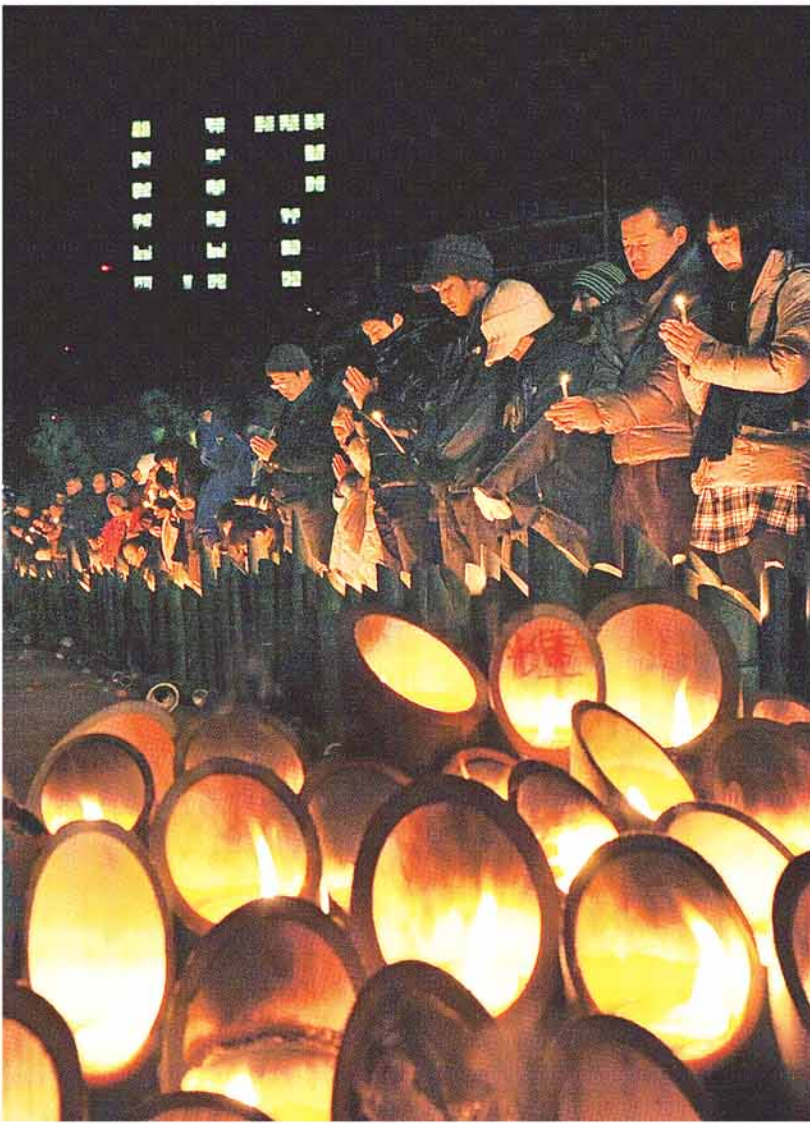
ともされ、「1995 1・17」の文字が浮かび上がる中、地震発生時刻になる

と、参列者は静かに手を合わせ、犠牲者に黙とうをさ

続いで遊園地内の「慰霊と復興のモニュメント」前で追悼のつどいが行われ、神戸市灘区の自宅が全壊、近くに住む祖母(当時85)

浦裕美さん(49)が遺族を代表し「震災は多くの大切なものを奪ったが、人として大切なこともたくさん教えてくれた。そのことを忘れずに生きていきたい」と述べた。

また、神戸市の矢田立郎市長は15年を振り返り、「復興への道のりの中で、『命』『地域での助け合い』『日ごろの備え』の大切さを学んだ。この過程で生まれた絆を忘れず、安全・安心なまちづくりを目指していく」と誓った。



犠牲者に黙とうをささげる参列者(17日午前5時46分、神戸市中央区加納町6、東遊園地) (撮影・山崎 竜)